インダイレクト形高周波単相-低周波三相マトリックスコンバータの波形改善

◎中田 祐樹, 伊東 淳一(長岡技術科学大学)

1.はじめに

近年,非接触電力伝送など高周波の回路が盛んに研究されている⁽¹⁾。このとき変換器の入力は 100kHz 以上の高周波, 出力は商用系統を想定する低周波であり,パルス密度変調 (Pulse Density Modulation, PDM)制御が適用できる。

これまで著者らは、PDM 制御を適用した高周波電源用単 相-三相マトリックスコンバータ(以下, MC)を提案している⁽²⁾。 提案回路では、PDM 制御を用いることでゼロ電圧スイッチン グ(ZVS)が可能な利点がある。しかし、Δ-Σ変換を用いた PDM 信号生成法を適用した場合、出力波形に逆電圧のパルスと波 形のクランプ現象が発生する。

そこで本論文では、出力波形の改善手法として空間ベクト ル変調(SVM)を基にした PDM 信号生成法を提案する。また、 シミュレーションを行い、波形改善を確認したので報告する。

2. 動作原理と波形改善

図1にインダイレクト形単相-三相 MC を示す。これは、整流 器とインバータから構成される。本論文では、非接触給電の受 電端を模擬して、入力は高周波の正弦波電圧源とする。この 入力電圧の半周期を制御の最小単位(パルス)として扱い、ス イッチングを行うことで PDM 制御を適用できる。PDM 制御で は一定幅のパルスの密度およびその正負で波形を形成する。 また、入力の半周期毎に現れるゼロクロス点でスイッチングを 行うことで ZVS が可能となる。ZVS によりスイッチング損失をほ ぼゼロにできる。

図 2 にΔ-Σ変換を用いた PDM 信号生成ブロックを示す。ス イッチングに用いる PDM 信号は各相の指令値をΔ-Σ変換する ことで得られる。また、入力電圧のゼロクロス点と同期させるこ とで ZVS を実現する。しかし、この手法は図 1 のインダイレクト 形の回路構成において、出力電圧波形が一定電圧にクラン プされる。その結果、ZVS できず、スイッチング損失が増加す る。この改善法として、SVM を基にした PDM 信号生成法を提 案する。

図 3 に SVM を基にした PDM 信号生成ブロックを示す。 SVM による選択ベクトル信号を D-FF に入力し,入力電圧の ゼロクロス検出信号を CLK に入力することで,出力 Q はゼロク ロス検出信号のエッジで同期する。この信号からスイッチング 信号を生成することにより ZVS を実現する。

3. シミュレーション結果

図4にΔ-Σ変換を使用した PDM 信号生成法を適用したシミュレーション結果を示す。図4(a)は入出力の電圧と電流である。 図4(b)は同図(a)の区間Aを拡大したものである。(a)より,出力 電流は正弦波となっていることがわかる。しかし,出力電圧に は逆電圧のパルスが存在しており,波形ひずみに影響を与え る。(b)より,入力電圧のゼロクロス点でのスイッチングを確認で きる。しかし,出力電圧が一定電圧にクランプされている期間 がある。この期間では ZVS できないため,スイッチング損失が 増加する。

図 5 に SVM を基にした PDM 信号生成法を適用したシミュ レーション結果を示す。図 5(a)は入出力電圧および電流であ る。図 5(b)は同図(a)の区間 B を拡大したものである。(a)より, Δ-Σ変換を用いた方式と同様に,出力電流は正弦波である。 また,出力電圧にはΔ-Σ変換を用いた方式で発生していた逆 電圧のパルスが発生していない。(b)より,入力電圧のゼロクロ ス点でスイッチングされており,スイッチング損失をほぼゼロに できる。また,Δ-Σ変換を用いた方式で発生していた出力電圧 波形のクランプ現象は発生せず,波形の改善を確認できる。

以上より、提案手法の有効性が確認できる。







Fig. 2. Control block diagram using Δ - Σ conversion.





Fig. 4. Operation waveforms of the PDM using Δ - Σ conversion.



参考文献

- 1. 黒田:電子情報通信学会誌, Vol.93, No.11 pp.964-968 (2010)
- 2. 中田, 伊東: 東京支部新潟支所大会, IV-07 p.114 (2010)